

学校自慢

地域とともに、地域のために

九十九里町立九十九里小学校長 丸尾 剛彦



1 はじめに

本校は、昭和47年創立で、今年度で開校47年目になる。三方を水田と作田川に囲まれ、夏場でも涼しい風が教室を通り抜ける恵まれた地域環境である。地域の多くは水田や畑で、2kmほど東には広大な九十九里浜、イワシ漁が盛んな片貝漁港、「青いポスト」が立っている「海の駅」があるなど、農業、水産業、観光業が営まれている。

2 学校自慢

一つ目は、昭和48年に制定された校歌だ。歌詞は「里の秋」で有名な斎藤信夫氏に作っていただいたもので、ダイナミックな歌詞が子供たちのおおらかな気持ちを自然に育ててくれていると思う。また、1番・2番とも「九十九里」にちなんで99文字で作られているというところも密かなトリビアである。

二つ目は、平成元年度から2年度にかけて作られた今の校舎だ。



中央部に2階まで吹き抜けのホールがあるなどデザイン性に富んだ構造で、地域の方のお話によると、設計図を作る段階で地域の方の意向がかなり取り入れられているそうだ。新しい校舎に対する地域・保護者・児童・職

員の期待はとても大きかったのではないかと推察される。

三つ目は、「英知の会」という歴代PTA会長をメンバーとする学校支援団体があるということだ。「英知」という言葉は、校歌の2番にある「頬を寄せて 英知足して 根かぎり」という歌詞からきている。平日の活動支援のみならず、休日・早朝にも、校庭の草刈りや学校園の世話をしてくださっている。子供たちは、その姿を見たり一緒に活動したりする中で、感謝の心と豊かな情操が養われていると思う。



そして、四つ目が一番の自慢である。それは、子供たちだ。素直で元気で、挨拶や返事は力強く、歌声は伸びやかで、いろいろなことに興味を持って目がキラキラしている素晴らしい子供たちである。

3 おわりに

環境・地域・保護者・子供に恵まれた九十九里小学校。この学校が「地域を誇れる学校」「地域に誇れる学校」「地域が誇れる学校」になるよう、職員一同、それぞれの特性を発揮して、子供たちの笑顔のために頑張っていきたいと思う。